

PHARMACY DIGEST

10・11

2019 October &
November

【巻頭インタビュー】…… 2 P

* 薬剤部内に連携の専門部署を立ち上げ 保険薬局との共同指導や情報共有体制を強化 薬局との情報共有にトレーシングレポートを活用

日本赤十字社 京都第二赤十字病院 薬剤部長 友金幹視
同院 薬剤部 地域連携指導管理課課長／地域医療連携・入退院支援室 神田英一郎

【薬業連携 ～薬剤師が変わると病院が変わる～⑨】…… 6 P

* 薬業連携の取り組みがもたらす新たな変化とは

ファルメディコ株式会社／医療法人嘉健会 思温病院 理事長 狭間研至
熊本大学薬学部・熊本大学大学院薬学教育部 臨床教授

【To Best Pharmacy ～愛されるかかりつけ薬局を目指して～】…… 7 P

* 株式会社和商 水島薬局 (北海道岩見沢市)

* 【今月のおすすめ「食事療法レシピ」】大豆のチリコンカン…… 8 P



薬剤部内に連携の専門部署を立ち上げ 保険薬局との共同指導や情報共有体制を強化 薬局との情報共有にトレーシングレポートを活用

京都第二赤十字病院は、高度急性期医療を担う基幹病院が集中する京都市内にある。救急医療とともに、地域がん診療連携拠点病院としてがん医療に力を入れる同院では、がん治療の外来シフトが進むなかで、薬剤師の活躍の場も外来へと拡大している。並行して保険薬局などとの地域連携も重視し、2019年4月に薬剤部内に連携に特化した「地域連携指導管理課」を立ち上げた。

夜間緊急入院も含めて 月900件の持参薬鑑別を実施

——京都市は急性期病院が集中するエリアですが、そのなかでの貴院の役割を教えてください。

友金 京都第二赤十字病院は、稼働病床数638床の高度急性期病院です。京都市のほか2市1町からなる京都・乙訓医療圏は、京都府内でも人口当たりの病院数が最も多く、500床以上の病院も大学病院2施設を含めて8施設あり、基幹病院が集中している地域なのです。

こうしたなかで、当院は高度救命救急センターを持ち、“断らない医療”を掲げて救急医療に力を入れています。救急搬送受け入れ件数は、当医療圏では京都第一赤十字病院に次いで多く、地域がん診療連携拠点病院や地域医療支援病院などの指定も受け、専門医療を展開しています。

——薬剤部はどのような人員体制なのでしょう。

友金 薬剤部には薬剤師54名と薬剤技能補助者10名が在籍しています。薬剤技能補助者は、処方箋の整理や業務上の集計など事務処理をメインで担当しています。最近、病院の薬剤師業務は拡大しているため、できれば入院患者10名に対し薬剤師1名を配置したいのです。病床利用率などを踏まえると60名体制が理想だと考えています。

——どのような業務に注力されているのですか。

友金 チーム医療には薬剤師が必ず参加していますし、病棟薬剤業務実施加算は2012年に、2016年には特定集中治療室などへの薬剤師配置を評価した加算2も取得しています。最近では、お薬サポートセンターや、薬剤師外来での取り組みに力を入れています。

お薬サポートセンターでは、入院時の持参薬鑑別や初回面談と、手術で予定入院の患者さんの術前中止薬スクリーニングを手がけています。患者さんが入院の受付を

した後、最初に顔を合わせる医療者が薬剤師で、月約900件の鑑別を実施しています(表1)。最近、交代制勤務を導入して夜勤帯も薬剤師2名体制を取り、夜間緊急入院においても持参薬鑑別ができるようになりました。

——それにしても月900件という多さには驚きます。何か体制の工夫をされているのでしょうか。

友金 理由の1つに、患者さんの入院病棟に関係なく、病棟担当薬剤師が交代で鑑別に入っていることがあると思います。どうしても週の初めに入院が、週の後半には退院が集中する傾向にあるので、病棟担当はその対応に追われがちです。そのため、受け持ちの病棟に関係なく分担したほうが効率的なのです。鑑別の際に初回面談も行いますが、確認することは副作用歴など病棟が違っても共通しているので問題はありません。

——術前中止薬スクリーニングはどの程度行っているのですか。

友金 月に約450件です。各診療科から依頼のあったときにスクリーニングをしています。最初から休薬しないと決めている手術などを除いて、ほぼ全ての科から依頼があります。

経口抗がん剤から脳卒中再発予防まで 薬剤に関わる面談・指導で貢献

——病棟以外でも薬剤師がかなり活躍しているんですね。

友金 薬剤師外来もその1つです。経口抗がん剤やオピオイドを使用する患者さんの面談、自己注射や吸入薬の指導、すべて

表1 京都第二赤十字病院 薬剤部の概況

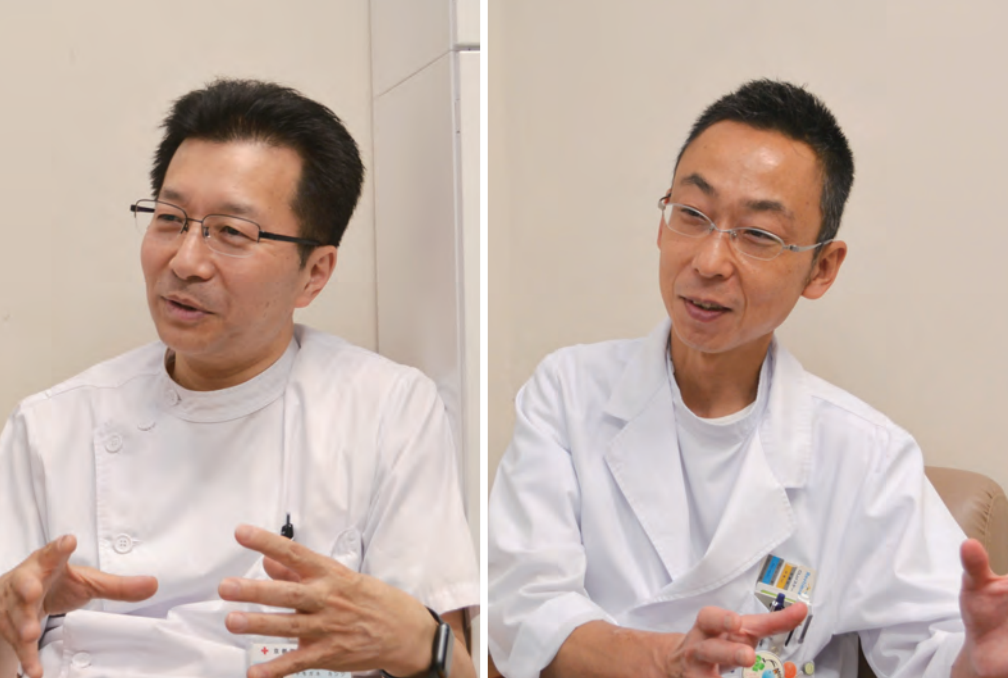
- 薬剤管理指導件数：2,000件 / 月
- 退院時薬剤情報管理指導料：570件
病棟薬剤業務実施加算：2012年4月取得
病棟薬剤業務実施加算2：2016年4月取得
- 病棟薬剤業務実施時間(平均)：27.0時間 / 週
- 持参薬鑑別件数：900件 / 月
- 術前中止薬スクリーニング：450件 / 月
- 抗悪性腫瘍剤無菌製剤処理件数：外来340件 / 月
入院320件 / 月
- がん患者指導管理料ハ算定件数：100件 / 月

(資料提供：京都第二赤十字病院薬剤部)

表2 薬剤師外来の対象

1. 内服抗がん剤投与患者
2. オピオイド(医療用麻薬)使用患者
3. 自己注射導入患者
4. 吸入指導依頼患者
5. C型肝炎治療薬指導
6. サリドマイド製剤指導
7. 脳卒中再発予防外来受診患者

(資料提供：京都第二赤十字病院薬剤部)



きない状況でした。

そこで、2014年11月に予約制の薬剤師外来を設けました。また、保険薬局でも確認できるように処方箋に検査値を記載することを提案し、2015年に実現したのです。

——指導件数の多さも特筆すべき点だと思うのですが、医師にどのように薬剤師外来を活用してもらっているのでしょうか。

友金 医師から、薬剤師に関わってほしいといわれることは多いので、信頼はされているのだと思います。ただ、薬剤師外来については、薬剤部から働きかけた

の患者さんではありませんが脳卒中再発予防外来の医師の診察前の面談などを手がけています(表2)。当院はがん診療連携拠点病院のため、がん領域の指導が薬剤師外来の中心になるのですが、個室を設け、医師と同様に担当薬剤師の名前を表示して、1回20分枠の予約制で実施しています。外来化学療法センターでのベッドサイドでの指導も含めて、「がん患者指導管理料Ⅷ」を月100件程度算定しています。

脳卒中再発予防外来は、脳梗塞の治療後の患者さんが年1回定期受診するときに、薬剤師の面談を受けてもらうものです。脳梗塞を再発する患者さんのなかには、抗凝固薬や抗血小板薬などをきちんと服薬していなかった人も見られるため、脳神経内科の医師から介入を依頼されて始めました。

外来では、医師の診察前に薬剤師が患者さんと面談し、薬剤に関する情報を整理します。別の医療機関でプロスタグランジンE₁製剤を「血液をサラサラにする薬」として処方され、効果が同じだからと抗血小板薬を自己判断で中止したり、介助者がいないため正しく服薬できていない、処方が正しくされていないなど、思わぬ発見が少なくありません。これらの情報を電子カルテに記載し医師へフィードバックしています。ただ、残念ながら薬剤師が足りず、担当できる患者数は限られているのが現状です。

——医師からの信頼が厚いんですね。薬剤師外来はどのような経緯で設置されたのですか。

友金 もともと私が第二日赤に入職する前の2011年より、外来化学療法センターへは薬剤師常駐が開始されていましたが、院外処方の経口抗がん剤には関わっていませんでした。しかし腎機能に応じた減量がなされず処方、調剤され、副作用が発現し入院された症例を経験し、薬剤部が介入したほうがよいのではと考えるようになりました。当時は処方箋に検査値が印字されておらず、保険薬局でもチェックで

ところも多分にあります。

薬剤師外来は当初、医師に予約を入れてもらっていたのですが、科によって偏りがあり、予約の手間で敬遠されることもありました。また、予約を入れても1回のみで、継続的なフォローにつながらないことも課題でした。

そこで、薬剤師自身の判断で、指導が必要と考えられる患者さんの予約を入れられるように、医師との間でプロトコルに基づく薬物治療管理(PBPM)を結びました。それにより、指導件数は1.5倍に増え、継続フォローにより、副作用の予防や重篤化防止などでより貢献できるようになったと考えています。

薬剤部内に連携の専門部署を設置 保険薬局や後方連携先とのつなぎ役に

——積極的な働きかけで活動の場を広げてきているんですね。

友金 お薬サポートセンターで入口を支援し、病棟で患者さんに関わり、薬剤師外来で退院後も継続的なフォローができる体制が整ってきています。こうしたなかで、今一番やらなければならないと考えているのは地域、特に保険薬局との連携です。

実は薬剤師外来も、保険薬局の先生方との情報共有を目的の1つとして取り組んでいます。病棟の薬剤師が入院中の情報を、薬剤師外来の薬剤師と保険薬局に提供し、薬剤師外来で得られた情報も保険薬局に提供する。そして、保険薬局から薬剤師外来に情報が伝えられれば、患者さんを囲む三角形の情報共有が

■ 日本赤十字社 京都第二赤十字病院 概要 ■

1926年開設。稼働病床数638床(ICU、SCU含む)。高度救命救急センターを持ち、2016年度の救急搬送件数は7,499件と市内でも多い。平均在院日数は10.5日、1日の外来患者数は約1,200人。地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、臨床研修指定病院などの指定を受ける。

薬剤部は薬剤師54名、薬剤技能補助者10名(2019年8月現在)。院外処方箋発行率は93.0%。薬剤師外来などを通じて積極的に指導業務を展開。薬剤管理指導件数は月約2,000件、がん患者指導管理料Ⅷは月約100件算定。

■所在地：京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町355番地の5

■URL：https://www.kyoto2.jrc.or.jp/



うまくいくと考えたのです。しかし、薬剤師外来の片手間では連携は難しいと、今年4月に、薬剤部内に「地域連携指導管理課」をつくり、連携専任の担当者を1人置きました。

——薬剤部内に連携の専門部署を置くのは珍しいと思いますが、どのような役割を担うのですか。

友金 1つは、今お話ししたような近隣の保険薬局との連携です。そしてもう1つが、当院での急性期治療を終えた患者さんの転院先などとの連携です。

当院では後方連携先の間で、大腿骨と脳卒中の地域連携クリティカルパス(連携パス)を運用しています。病棟薬剤師は、連携パスを通じて入院中の薬剤情報を連携病院に提供していますが、転院する患者さんのなかで連携パスの適用対象となるのは3割程度で、残り7割の患者さんについては十分に薬剤情報が

提供できていないとは言えません。特に、主たる診療科以外の処方薬や、当院入院前の服用薬などの情報が、転院先に伝わっていないことがあります。

転院時には、双方の病院のメディカル・ソーシャルワーカー(MSW)などが窓口となることがほとんどで、薬剤師同士は互いの「顔」が見えません。そのため、連携病院の薬剤師と顔を合わせる場をつくろうと、合同勉強会を計画しています。

外来がん治療における患者フォローにはかかりつけ薬局の力が必要

——地域連携指導管理課の課長である神田先生は、これまでは保険薬局とどのように関わってこられたのですか。

神田 薬剤師外来で保険薬局と関わる機会は多くあります。特に、経口抗がん剤を処方されている患者さんについては、お薬手帳などを介した薬局への情報提供を重視しています。例えば、患者さんへの指導内容のほか、過去の治療・手術歴、検査値など、薬学的管理に必要なかつ薬局では入手しにくい情報を記載するよう意識しています。

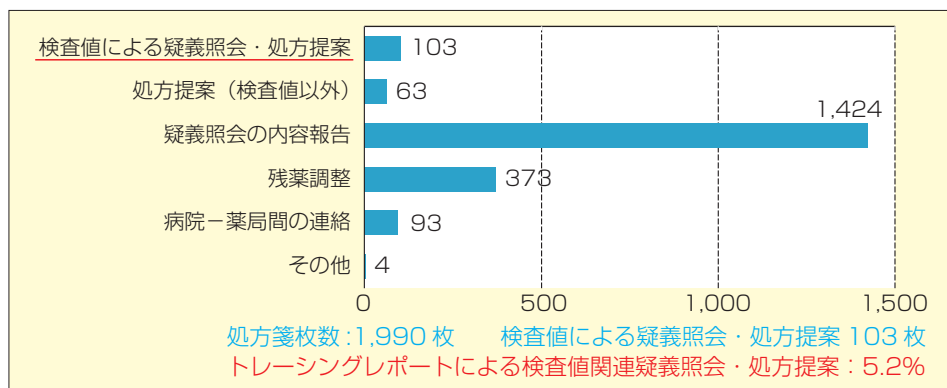
当院では化学療法チームで、患者さんの治療内容や日々の体調などを記録する「治療日記」も作成しています。こうしたツールを活用すれば、副作用のモニタリングや処方提案など力を合わせられることは多くあると思います。外来診療では受診間隔が数週間空くことがあります。その間、患者さんのそばに病院のスタッフはいないため、かかりつけ薬局などの先生方の力を借りたいところです。

図1 臨床検査値表記院外処方箋

(資料提供：京都第二赤十字病院薬剤部)

図2 トレーシングレポートとして送られてきた処方箋枚数とその内訳

(2015年12月～2017年3月)



(資料提供：京都第二赤十字病院薬剤部)

表3 検査値による疑義照会内訳

(2015年12月～2017年3月)

臨床検査項目	件数(件)
腎機能(Scr, eGFR)	83
K	8
PT-INR	4
Ca	4
CRP	2
肝機能(AST, ALT)	1
尿酸値	1
合計	103

検査値の中で腎機能項目が80%以上!

(資料提供：京都第二赤十字病院薬剤部)

——処方箋への検査値表示のお話などもありましたが、これまで薬局との連携にどのように取り組まれてきたのでしょうか。

友金 当院では、近隣の保険薬局の先生方と一緒に年3、4回研修会を開催し、すでに30回を超えています。その場で意見交換も行っているのですが、それが取り組みのきっかけになることもあります。

処方箋への検査値表示は、肝・腎・血算・電解質・血糖関連など18項目です。項目数が多いといわれますが、病棟と外来の担当薬剤師が集まって話し合い、必要最小限に絞りました。さらに、1回の結果だけでは数値の動向がつかめないため、過去4カ月以内の直近2回分の検査値も載せることにしました(図1)。処方箋には、当院から保険薬局、また保険薬局から当院への連絡欄も設け、トレーシングレポート機能を付加しています。

図3 服薬情報提供書(残薬理由)

(資料提供: 京都第二赤十字病院薬剤部)

図4 服薬情報提供書(吸入チェックシート)の一例

(資料提供: 京都第二赤十字病院薬剤部)

自己注射や吸入薬の手技などの評価シートを薬局と共同作成

——検査値表示によって、疑義照会や情報提供の件数や内容などに変化はありましたか。

友金 処方に対する疑義照会は直接各科で受け付けているので、件数の変化は分かりません。ただ、送られてきたトレーシングレポートは1年4カ月間で約2,000枚、そのうち検査値による疑義照会・処方提案は100件ほどで(図2)、それに対する医師の処方変更率は約7割と高い割合でした。疑義照会などの内容は、腎機能に関するものが多くを占めています(表3)。

その後、残薬調整に関する問い合わせの増加に伴い、医師の処方の参考になることから、残薬の理由を保険薬局に送ってもらうための専用のトレーシングレポートも作成しました(図3)。こうした情報共有の比重を大きくするために、同時に必要性の低い問い合わせを減らそうと、2018年4月に問い合わせを不要とする事前合意項目を示しました(表4)。その結果、薬局か

らの問い合わせ件数は大幅に減りました。こうした流れのなかで、地域連携指導管理課の最初の取り組みとして、自己注射と吸入指導についての評価シートを、薬局と一緒に作成しています。——どのような経緯から作成に取り組んだのですか。

神田 保険薬局との研修のなかで、吸入や自己注射の指導については、病院ですでに実施されていると判断し、保険薬局では患者さんの希望がなければ実施していないケースもあることを知ったのです。しかし、一度指導をしてもその後のフォローも必要です。

そこで、当院の薬剤師外来での指導に加え、保険薬局でも継続的に指導してもらうためのツールを作成することにしました。当院の医師にとっても、患者さんの手技に問題があって薬の効果がでないのかという情報は、診療方針を立てるうえで大切です。そこで、研修に参加している近隣8薬局に提案し、患者さんの手技や用法への理解度などを確認してもらうための項目をまとめたチェックシート(図4)を、共同で作成することにしました。

デバイスが違うので、製品ごとにチェックシートを作成しました。自己注射のチェックシートは当院の薬剤師で作成し、吸入薬のチェックシートは保険薬局で製品ごとに手分けして作成してもらいました。互いに意見交換を重ね校正を繰り返し、6月から運用を始めたところです。

友金 チェックシートは病院のホームページに掲載していますので、他の薬局の先生方にも広く活用していただきたいと思います。地域全体で、レベルアップしていけるような取り組みをするというのが、当院の基本スタンスです。

神田 地域連携指導管理課でも、こうした取り組みを通じて、患者さんが入院しても外来に戻ってもシームレスな対応ができるように、入院、外来、そして地域との間をうまくつないでいきたいと思います。

——本日は貴重なお話をありがとうございました。

表4 事前合意項目における問い合わせ不要プロトコル

- 残薬調整に関する問い合わせ
- 問い合わせ不要項目
- ① 剤形の変更
- ② DPP-Ⅳ阻害薬の週1回製剤あるいはビスホスホネート製剤の週1回製剤が連日投与の他の処方薬と同一日数で処方されている場合の処方日数の適正化
- ③ 「隔日投与」、「1日おきに服用」あるいは「週3日 月水金」と指示された処方薬が連日投与の他の処方薬と同一の日数で処方されている場合の処方日数の適正化
- ④ 患者の希望があった場合の消炎鎮痛外用貼付剤における、パップ剤⇄テープ剤への変更
- ⑤ 湿布や軟膏やクリームでの規格変更に関すること
- ⑥ 別規格製剤がある場合の処方規格の変更
- ⑦ 漢方薬の食後投与
- ⑧ 加算が算定できない一包化

(資料提供: 京都第二赤十字病院薬剤部)

薬薬連携

~薬剤師が変わると病院が変わる~

ファルメディコ株式会社／医療法人嘉健会 思温病院 理事長
熊本大学薬学部・熊本大学大学院薬学教育部 臨床教授
医師・医学博士 狭間 研至



第9回 薬薬連携の取り組みがもたらす新たな変化とは

薬剤師の業務を 薬を「のんだ後まで」に広げると大きく変化する2つのポイント

薬薬連携。古くて新しいテーマに薬剤師が改めて取り組むきっかけは、薬剤師の仕事の範囲を、薬をお渡しするまでではなく、薬をのんだ後までに広げることにあると思います。「薬を渡すまで(対物)から、のんだ後まで(対人)」ということは、以下の2つの点で薬剤師のあり方に大きな変化をもたらす概念だと私は捉えてきました。

1つは、薬剤師が専門家として機能するためには、薬学部で特に深く学ぶ「薬理学」「薬物動態学」「製剤学」といった知識に基づいた業務を行うことが必要ですが、これらは、薬が身体に入ったあと、その薬はどうなり、身体にどのような影響を及ぼすのかということとを考えるとときに用いる学問です。ということは、「薬を渡すまで」の業務では、薬学的専門性を発揮することは理論的に不可能だと思います。しかし、「のんだ後まで」を担当することになれば、これらの専門知識を用いることで、薬剤師が考える内容は他の医療職種にとって価値あるものとなり、チーム医療における薬剤師のあり方は、大きく様変わりするはずです。

そして2つめは、このことは、薬をお渡しすることから、のんだ後までに変わるのではないということです。誤解を生まないように、多少くどく言うならば、薬を渡すまでに加えて、のんだ後までということになるでしょうか。つまり、従来の薬を渡すまでの対物業務を、従来通りしっかりこなしながら、のんだ後までフォローするという対人業務までもカバーするようにするになり、仕事が増えるということなのです。従来の「薬を渡すまで」の業務で残業し、薬歴を書く時間も十二分にとれないという現状の薬剤師が、新たな業務に取り組むことは難しく、また、それによって対物業務にミスが頻発するようであれば本末転倒にすらなります。これを解決するには、現在の業務を今一度、整

理し、機械化やICT化を積極的に進めた上で、薬剤師は薬剤師で行うべき本質的業務に専念するとともに、それ以外の業務については、薬剤師以外の人材を活用した業務内容の振り分けが必要です。このことによって、薬剤師が、新たな業務に取り組める余裕が初めてできるのです。

薬剤師のあり方が変われば 薬物治療や薬薬連携の質は より高まる

これら2つのことを踏まえて、薬薬連携に取り組むと、いくつかの変化が訪れますが、最も大きいのは、薬剤師のあり方が変わり、薬物治療の質が向上することです。薬局と病院の薬剤師が、「薬を渡すまで」の情報をやりとりするだけであれば、それらの情報は医師の診療情報提供書や看護師のサマリー、お薬手帳などでも代替可能であり、とりたてて必要ということはありません。処方や患者情報の電子化と共有などが進めば、薬薬連携すら不要になるかも知れません。

しかし、「のんだ後まで」を薬局・病院の薬剤師が共有し合うようになれば、入院、退院時の処方内容の引き継ぎがより正確に行われるようになるだけでなく、それぞれの薬の処方意図はもとより、用法や用量、さらには、OD錠や散剤、シロップなど、患者の状態に応じた剤形選択の理由までもが、薬剤師同士で引き継がれることになります。

昨今では、退院支援だけではなく、入退院支援ということが医療連携では重要になってきましたし、そこにおいて入院患者の薬剤情報を、それまで担当していた薬局薬剤師が(リアルタイムではなくとも)病院薬剤師へと提供することの意義は大きいですし、それが単なる薬の情報のみならず、こういった観点で患者を薬学的にフォローしていたのかということが共有できれば、さらに質の高い薬薬連携が実現され、患者の安全性がより高まっていくのではないのでしょうか。



▲管理薬剤師 水島久美氏

株式会社和商 水島薬局(くすりのみずしま薬局)

(本社：北海道岩見沢市)

**“配食”とともに“見守り”のサービスを提供
地域住民の総合的なサポートを目指す**

創業以来、地元に根ざして活動している水島薬局。近隣市町村では唯一の無菌調剤設備を持つ薬局で、疼痛緩和の在宅業務も実施している。患者とその家族が安心して自宅で過ごせるように、さまざまな工夫やサービスを提供する、同社管理薬剤師の水島久美氏にお話を伺った。

——はじめに、貴社の概要をご紹介ください。

水島薬局は、創業1951年の地元に根ざしたくすり屋です。1988年より在宅業務を手掛けており、2016年に健康サポート薬局となりました。2018年度の在宅業務の実績は、月平均68.5件です。近隣市町村で唯一の無菌調剤設備を持つ薬局なので、長距離の緩和ケアの在宅も実施しています。PCA ポンプ等を利用した疼痛緩和の在宅では、医師・看護師と一緒に訪問することも定着しています。

——高齢者や地域住民に、宅配弁当のサービスを行っているそうですね。

はい。2018年6月に、配食サービス部門を新設しました。健康サポート薬局として地域住民を総合的にサポートしたいと活動するなか、地域内過疎地のコンビニや食品を取り扱っている店舗が撤退。配食サービス業者が圏外と指定したことも受けて、薬局に配食部門を新設し、“食”のサポートを行うことにしました。

年中無休を掲げ、昼食と夕食の1日2回、薬局所在地の岩見沢市ばかりでなく、隣接する市町村も含めた

地域へ配食を開始。急な入退院にも対応できるよう、配食の開始・中断・終了の連絡を受理する期限は極力短い時間としています。体調や安否の確認、服薬チェックなどの“見守り”も目的としていますので、配食は原則手渡しです。

——メニューは、多様なニーズに合わせているとか。

ごはんの硬さ・量はもちろん、糖尿病・腎臓病・透析患者・嚥下困難・咀嚼困難にも対応した内容を用意しています。地域の民生委員、地域包括支援センターや社会福祉協議会をはじめ、介護事業所とこまめに連絡をとって、食に困っている方にアプローチしました。

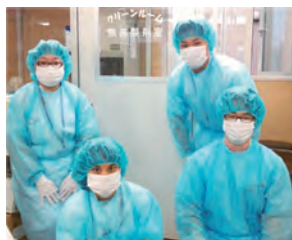
病院の地域連携室から、退院時、自宅での食生活に困難のある方へ紹介いただいていることもあり、患者さんやご家族からの問い合わせをいただくほか、担当医師から退院後の訪問薬剤管理を依頼されることも多くなりました。

今後も健康サポート薬局としての知識と経験を生かしながら、「地域1番」のサービス提供を目指して努力していきたいと思っています。



◀多職種による在宅チーム(左から看護師・水島氏・医師・薬剤師)。

▼同社の新年度会の様子。



◀近隣市町村の薬局では唯一の無菌調剤室を持つ。



▶配食サービス部門を新設し、“食”のサポートを行う。

基本 DATA

本社所在地：北海道岩見沢市6条西1丁目7-3／創業：1951年(保険薬局としての開業1980年)／店舗数：2店舗／従業員数：27名(内、薬剤師12名)／URL = <http://mizushima-pharmacy.jp/>

今月のおすすめ「食事療法レシピ」



大豆のチリコンカン

このような傾向の方におすすめ

●糖尿病 ●高脂血症 ●高血圧 ●肥満 ●高尿酸血症・痛風

ひき肉や玉ねぎと一緒に、大豆の水煮をトマトで煮込みます。ごはんやパン、パスタなど、どんな主食にも合います。

◎管理栄養士からのレシピポイント

大豆の苦味成分である大豆サポニンには、コレステロールや中性脂肪を減らして動脈硬化を予防する働きがあります。トマトのうま味やスパイスの香りをいかし、調味料を控えて減塩します。

材料（2人分）

大豆（水煮） 120 g
豚ひき肉 40 g
玉ねぎ 1/2 個
ピーマン 大1 個
にんにく 1/2 かけ
オリーブ油 小2
トマト水煮缶 200mL

作り方

①玉ねぎ、ピーマン、にんにくは全てみじん切りにする。
②鍋にオリーブ油とにんにくを入れて火にかけ、香りが立ったらひき肉、玉ねぎ、ピーマンを炒め、軽く塩、こしょうをふる。
③大豆、トマト缶、コンソメ、チリパウダーを加えて5分程煮て、塩、こしょうで味をととのえる。

■塩分（1人前） 1.8g
■カロリー（1人前） 240kcal

■調理時間：15 分
■分 類：主菜
■難 易 度：簡単
■ジャンル：洋



©Nippon Chemiphar Co., Ltd.

そのほかのレシピもご紹介しています。詳しくは日本ケミファホームページへ。 <http://www.chemiphar.co.jp/>

日本ケミファの

2018年12月発売品目

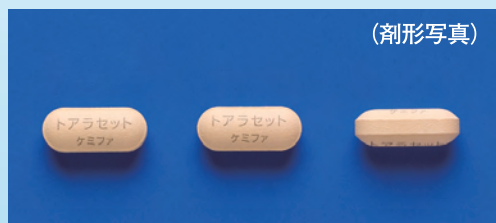
慢性疼痛 / 抜歯後疼痛治療剤

劇薬・処方箋医薬品^注

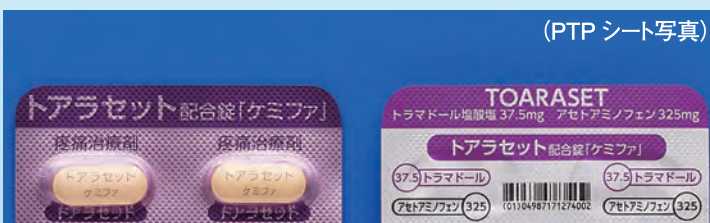
トアラセット配合錠「ケミファ」

〈トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠〉

製造販売元: 日本薬品工業(株)



(剤形写真)



(PTP シート写真)

注) 注意 - 医師等の処方箋により使用すること

●効能又は効果、用法及び用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。



販売元(資料請求先)

日本ケミファ株式会社
東京都千代田区岩本町2丁目2-3

2019-6

おくすりに関する資料及び製品に関するお問い合わせ先

日本ケミファ株式会社 くすり相談室(安全管理部)

受付時間 8:45~17:30 土日・祝祭日を除く

TEL 03-3863-1225 フリーダイヤル 0120-47-9321

PHARMACY DIGEST [2019年10・11月号]

発行日 ■ 2019年10月1日

発行 ■ 日本ケミファ株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目2番3号

TEL: 03-3863-1211 (大代表) URL: <http://www.chemiphar.co.jp>

製 作 ■ 株式会社ドラッグマガジン / 印 刷 ■ 広研印刷株式会社